

マリンセーフティ ガイド

安全航行のチェックポイント

プレジャーボート 編 (水上オートバイ・ミニボート)



平成23年度版

海上保安庁



運航の際のチェックポイント

出航前のチェックポイント



- 法定書類、法定備品が積み込まれていますか
- 船体・機関の点検をしましたか
- ライフジャケットを着用していますか



- 気象・海象情報を入手していますか
- 連絡体制を確保していますか
- 出航、帰航予定を家族等に知らせていますか

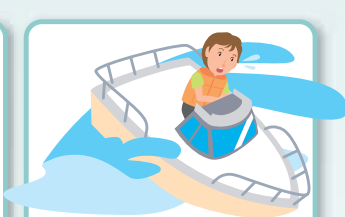
運航中のチェックポイント



航行中、漂泊中を問わず
見張りをしていますか



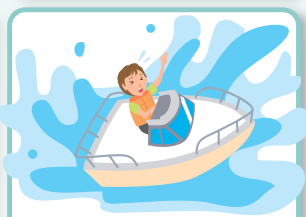
海上交通ルールやマナーを
守っていますか



航行中の横波、追い波に
対して注意していますか



灯浮標(ブイ)に係留したり、
遊泳者や定置網などに近づ
き過ぎていませんか



気象の変化に
注意していますか



仲間や関係者との定時連絡
を行っていますか

小型船舶船長の遵守事項

酒酔い操縦などの禁止



免許所有者の自己操縦(※1)



危険操縦の禁止



ライフジャケットなどの着用措置(※2)



発航前点検の実施



見張りの実施



事故時の人命救助

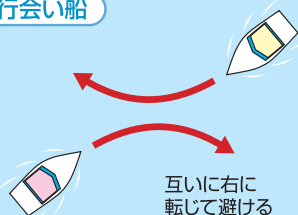


☆上段の項目に違反すると免許停止などの行政処分の対象となる場合があります。

※1: 港内や航路内(水上オートバイは全ての水域)では、免許者が直接操縦しなければなりません。
※2: 子供や水上オートバイの乗船者等は、ライフジャケット等を着用しなければなりません。

基本的な海上交通ルール

行会い船



互いに右に
転じて避ける

横切り船

相手を右に見る船舶
右に転じ、又は
速力を減する



針路、速力
を保つ



追越し船

針路、速力
を保つ

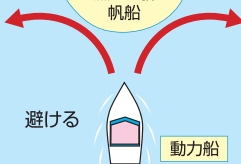


確実に
追い越す

十分遠ざかる
まで相手船の
進路を避ける

各船間

運転不自由船
操縦性能制限船
漁ろう船
帆船



避ける

動力船

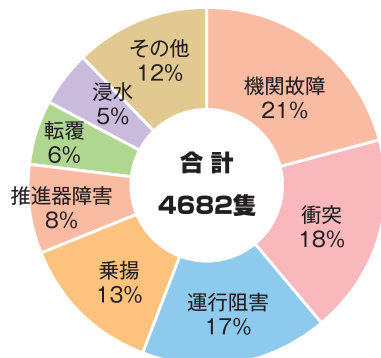
相手船の避航動作のみでは衝突が避けられないときは、自船も機関を停止又は後進にするなどして、衝突を防ぐための協力動作をとらなければならない。



プレジャーボート^(※)の海難状況

(平成18～22年)

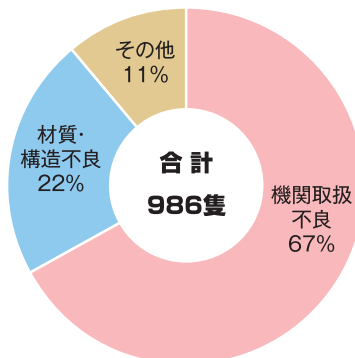
海難の発生状況



最も多く発生しているのは機関故障で、次いで多いのは衝突です。

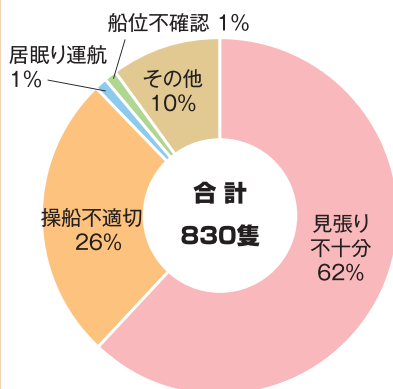
- ◎運航阻害: バッテリー過放電や燃料欠乏など
- ◎推進器障害: 推進器の破損やロープ等の巻き込みなど

機関故障海難の発生原因



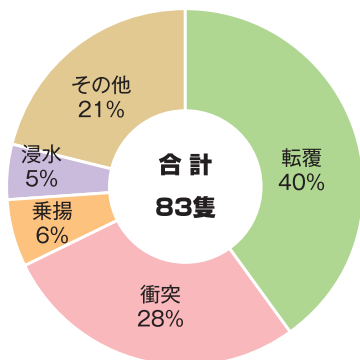
約7割が機関取扱不良によるものです。
適切な取扱いや出航前点検の実施により海難を減少させることができます。

衝突海難の発生原因



見張り不十分と操船不適切の合計が約9割を占めます。見張りを確実にし、ルールに基づく早期の避航を行うことが重要です。

死者・行方不明者を伴う海難の発生状況



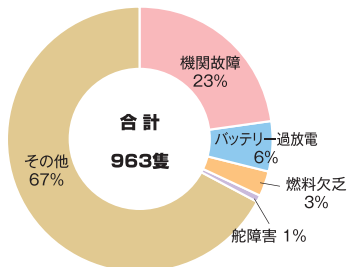
死者・行方不明者を伴う海難は、転覆と衝突が2／3を占めます。気象・海象の把握、見張りを確実にすることが重要です。

※プレジャーボート：レクリエーションなどに用いる船舶で、モーターボート、水上オートバイ、ミニボートなどをいいます。

適切な点検の実施について

(平成22年データ)

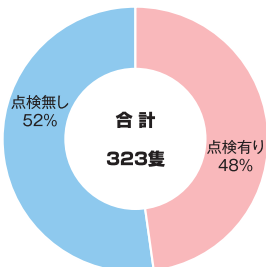
機関故障、運航阻害(バッテリー過放電、燃料欠乏に限る)、舵障害海難の発生状況



機関故障、運航阻害(バッテリー過放電、燃料欠乏に限る)、舵障害がプレジャーボート海難の1/3を占めています。

◎舵障害:舵取機、付属装置の故障、舵脱落など

機関故障、運航阻害(バッテリー過放電、燃料欠乏に限る)、舵障害海難の発航前点検実施状況



半数が発航前点検を行わずに航行しています。点検を実施していても、適切に行わなければ海難に至ることがあります。

洋上で航行不能となると?

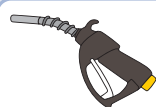
- 他船が向かってきても避けられません。
- 海が荒れてきても避難できません。
- 沖に流されても帰れません。
- すぐに救助されるとは限りません。



点検項目は?

☆航行不能とならないためには適切な点検を行うことが重要です。

☆発航前点検は確実に行いましょう。



燃料

- 燃料は十分ありますか
- 燃料こし器の目詰まりはないですか
- 燃料コックを開けましたか



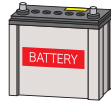
エンジンオイル

- オイルは規定量ありますか
- エンジンからの漏れはないですか
- 定期的に交換していますか



冷却水

- 冷却水は規定量ありますか
- 海水用こし器の目詰まりはないですか
- 海水取入弁は開けましたか



バッテリー

- 十分な電圧はありますか
- 端子に錆みはないですか
- バッテリー液は十分ありますか



漂 泊 中

- 電装品を使いすぎていませんか
- 再始動時、クラッチ中立やキルスイッチを確認していますか

点検の一例は ● ● ● ● ●

発 航 前 点 検

検 索

※詳しくは自船の取扱説明書等を確認ください。

ミニボートを安全に利用するために

(平成18～22年)

ミニボートの海難

免許や船舶検査が不要な「ミニボート」(※1)の海難は、過去5年間で203隻発生し増加傾向にあります。

海難の種類



転覆及び浸水海難が1/3を占めます。船上で立ち上がるなど船体バランスを崩さないようにしましょう。

◎安全障害:転覆に至らない船体傾斜、荒天離航等による海難

海難の原因



気象・海象不注意が1/4を占めています。荒天時の航行は困難ですので、出航前に気象状況を把握するとともに、航行中も気象変化に注意しましょう。

ミニボートの安全運航のためには!!

海のルールは守ろう!

ミニボート運航は免許が不要ですが、船長の責任は負います。ルール・マナーを守り、安全な航行に努めましょう。

海上交通ルール



強風や波が高い時は出航中止!

ミニボートは、風、波や航走波の影響で転覆しやすい船舶です。風が強い時、波が高い時や天候が悪化する時には、出航しない決断を!!



ミニボートは気付かれにくい!

ミニボートは、他船から見にくい船舶です。旗竿などで周りの船舶に存在を周知し、夜間の航行は控えましょう。(※2)



帰航困難の恐れ!

ミニボートは、機関出力が小さいことから、強風や潮流で沖合いに流され、戻れなくなる場合があります。海岸から遠く離れるような航行はしないようにしましょう。



※1 ミニボートとは ①船の長さ3m未満②推進機関の出力が1.5kw未満(約2馬力)③直ちにプロペラの回転を停止することができる機構を有する船舶その他のプロペラによる人の身体の障害を防止する構造を有する船舶
※2 夜間航行を行う場合は、ミニボートであっても日没から日出及び視界制限状態において法律で定められた灯火をつけなければなりません。

大切な命!自分で守る

海上保安庁では、大切な命を自分で守るため、そして、一人でも多くの人を救助できるよう、次の3つを基本とする「自己救命策確保」を推進しています。



ライフジャケットの 常時着用



携帯電話などの 連絡手段の確保



救助要請は118番

海のもしものは!

118

事故が発生した時は?

事故が発生したら、直ちに人命・船舶の救助を行うと共に、海上保安庁(118番)、付近の船舶などへ以下の項目について連絡してください。

自船(乗船者)に緊急事態が発生していることを、周りに知らせることが重要です。

- ☐ 通報者の名前
- ☐ どのような事故か
(衝突、転覆、急病、海中転落 等)
- ☐ 事故発生場所(通報場所)はどこか
(場所が不明な場合、出航場所及び事故発生場所への航行時間等)
- ☐ 傷病者の人数、傷病の状況及び実施した措置
- ☐ 船舶の状況及び実施した措置
- ☐ 船名、船種、乗船人数、船体の特徴(船体の色や形等)
- ☐ 今通報している以外に利用できる連絡手段
- ☐ その他参考事項



沿岸域情報提供システム(MICS)

(Maritime Information and Communication System)

地域に密着した情報をインターネットなどを通じて「誰もが簡単に」「必要な情報を必要なときに」「誰にでも分かりやすく」利用できる沿岸域情報提供システム(MICS)を運用しています。

MICSでは海難発生等の緊急情報、風向、風速等の気象・海象の現況、ライブカメラ画像、各地域の情報(漁具の設置状況、工事情報等)など海に関する安全情報をリアルタイムに提供しています。

海に出かける前に、海難を未然に防止するためにMICSを活用してください。

パソコンの総合サイト パソコンのMICSサイトへ、簡単にアクセスできます。

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/info/mics/>



携帯電話の総合サイト 携帯電話のMICSサイトへ、簡単にアクセスできます。

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/info/mics/m/>

